

# よさこい祭りの発展過程に関する研究

1150431 高橋央衣

高知工科大学マネジメント学部

## 1. 概要

本研究では高知県のよさこい祭りの発展過程を、参加チームの変化と若年層に対する支持理由の2つの観点から考察し、よさこい祭りが存続、発展し続けている理由について明らかにした。その結果、よさこい祭りが日本各地への伝播していること、現代の若者の性格的な傾向が要因としてあげられることが明らかになった。

## 2. 背景

1954年の8月に高知県で誕生したよさこい祭りは、2014年で61回目を迎えている。よさこい祭りは鳴子を手に持ち、前進する振付で、必ず曲の一部によさこい鳴子踊りのメロディを入れるなどのルールに沿っていけば、その他はほとんど自由となっている。よさこい祭りは8月9日に前夜祭、8月10日、11日に本祭、8月12日に後夜祭と4日間かけて各チームが高知市内に設置された16か所の演舞場、競演場を巡る。このよさこい祭りは、現在、高知県を代表する祭りとなっており、参加者も県内外問わず年々増加し続けている。

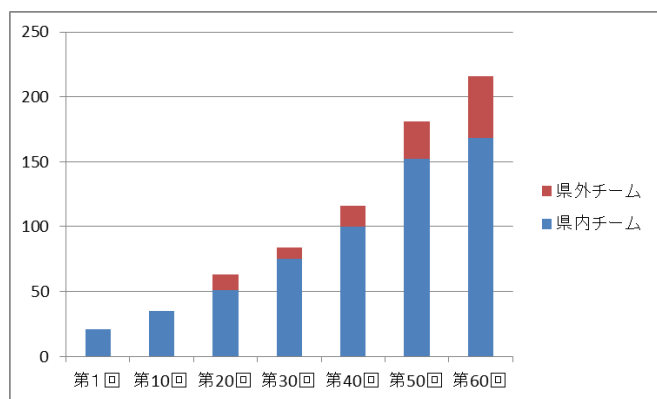


図1 県外チームと県内チームの参加推移

(<http://a4351.p-mission.net/yosakoi-entry-team/>)より作成(最終閲覧日:2015年1月28日)

現在、よさこい祭りは、全国600箇所以上に伝播しており、都会の若年層を中心に広がりを見せている。これに対して、神社の獅子舞や祭礼を見てみると、少子高齢化により担い手不足になり存続の危機に瀕している事例が多い。この傾向は、中山間地域だけでなく大都市圏でも深刻化している。

その視点で既往研究を見てみると、日本各地に広がったよ

さこい祭りの熱狂的な乱舞は、自己表現や人々の共感の場として、その時代の文化や世相を反映しつつ益々発展すると考えられる。また、よさこいが全国に広まった理由として、YOSAKOIソーラン祭りの成功という前例があるため、各地でも既存のチームから招待することで参加者、観客をある程度動員することができると同時に、地域の特徴を盛り込むことが可能であるためと考えられる。

## 3. 目的

本研究では、高知県を代表するよさこい祭りの参加チームの変化を明らかにするとともに、よさこい祭りが若年層に受け入れられる理由を考察する。

## 4. 研究方法

はじめに、高知のよさこい祭りの参加チームに着目し、過去の参加チームを1、土地、場所に関連する名前(例:大橋通り踊り子隊)2、組織・団体に関連する名前(例:四国銀行)3、その他(例:ひとひら)に分類しグラフ化することでチームの「名前」についてどのように変化してきたか、それらから何が読み取れるかを考察する。次に、高知のよさこい祭りが日本各地にどのように広まっていったか、それらがどのような影響を与えたかについて分析する。また、よさこい祭りを主催している、高知商工会議所でヒアリングを実施し、運営者側からみるよさこい祭りの今昔、近年抱える問題点と改善策について考察する。また、若年層のよさこい祭りに対するイメージ、参加する理由について20代を対象にヒアリング調査を行い明らかにしていく。

## 5. 結果

### 5-1 参加チームからみるよさこい祭りの変化

図2に、第1回から現在までの参加チームのネーミングより、場所や土地に関連する名前(青)、組織や団体に関連する名前(赤)、その他(緑)であらわした場合のチーム数推移を示す。

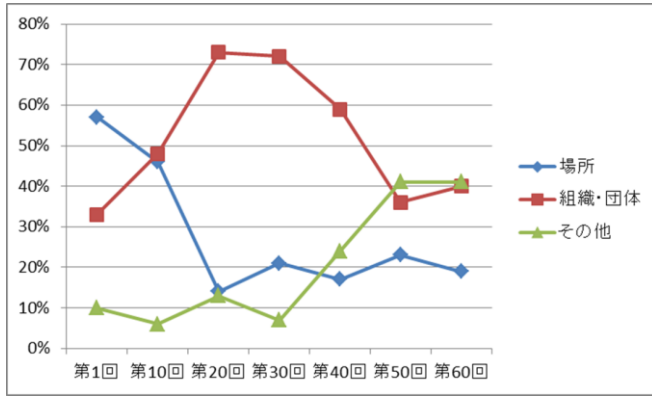


図2 よさこい祭り参加チームのネーミングの種類別チーム数推移 (<http://a4351.p-mission.net/yosakoi-entry-team/>) より作成 (最終閲覧日: 2015年1月29日)

図2から、初期の頃は場所や土地に関連するチーム、組織・団体に関するチームが祭りの繁栄を大きく担っていた。しかし近年では、その他のチームの参加が増加し、組織・団体に関連するチームと合わせて、全体の8割を占めるようになったことが読み取れる。これは、初期の頃は参加者が「高知市」に限られていたため、一定の人数が集まりやすい商店街チームや企業チームの参加が多く見られた。しかし次第に「高知市」という枠組みから「高知県」「全国」という枠組みに変化したことで様々な場所から人が集まりやすくなり、結果として個人のグループの参加も増加したと考えられる。

## 5-2 よさこい祭りの伝播

現在、一年を通して全国42都道府県、200種類ものよさこいに関する祭りが開催されている。

開始年度	名称	都市	参加団体数	開催日数
1952年	よさこい祭り	高知市	191チーム	4日間
1992年	YOSAKOIソーラン祭り	札幌市	304チーム	5日間
1997年	YOSAKOIさせぼ祭り	佐世保市	165チーム	3日間
1998年	みちのくYOSAKOIまつり	仙台市	190チーム	2日間
1999年	につぼんど真ん中祭り	名古屋市	221チーム	3日間
2000年	東京よさこい	東京都	113チーム	2日間
2002年	神戸よさこいまつり	神戸市	126チーム	3日間

図3 よさこい祭りに関係する代表的な祭り (<http://www.yosakoi.com/jp/RelSites.html>) より作成(最終閲覧日: 2015年1月29日)

1952年に高知県でよさこい祭りがスタートし、1992年に札幌で行われた、YOSAKOIソーラン祭りを皮切りに、1990年代後半から2000年代にかけて全国各地に伝播した。

## 5-3 主催者である高知商工会議所へのヒアリング調査

組織からみたよさこい祭りの過去から現在までの変化過程を明らかにする目的で、高知よさこい祭り前夜祭、本祭を主催する高知商工会議所地域振興課にヒアリング調査を実施した。ヒアリング項目は以下の4項目である。

(質問項目)

1. よさこい祭りでの取り組み内容及びその変化
2. 主催者としての取り組み内容
3. よさこい祭りによる高知の経済効果についての変化
4. 現在のよさこい祭りの問題点と改善策

### 【1】 よさこい祭りでの取り組み内容及びその変化

商店街振興や戦後からの復興、市民の祭りとして地域の祭りから、高知県下最大の祭りとなり、県下最大の観光資源となっている。振興会にとっては、商店街振興や地域のお祭りであるとともに、観光客を誘引という目的に特に変化はない。企画立案し、そして祭りの開催となるが、参加チームや観客の増加への対応として、安全策も強化している。各競演場・演舞場の道路使用許可・公園使用許可、などの国県市への申請や、保健所への飲食店の内容報告、警察署への申請などを行っている。

### 【2】 主催者としての取り組み内容

よさこい祭りを主催する組織は大きく分けて3つ存在する。

【よさこい祭振興会】 よさこい祭りの運営を行う。事務局が高知商工会議所で、メンバーは高知県・高知市・商店街・警察・マスコミ・観光関連事業所・青年部などがある。それぞれ各団体の役割は以下の通りである。

(高知県) よさこい祭りについては、チームを県外や海外派遣について助成するなど。例: 原宿スーパーよさこい(チーム派遣、観光案内・販売ブースの設置等) ドリームよさこい、ど真ん中祭り・港まつり(愛知県)、京都龍馬祭り  
県内で行われる当日のよさこい祭りへの関わりは少ない。

(高知市) よさこい情報交流館の建設、高知市チームの運営。全国大会や花火大会への係わりが大きいものの、当日のよさこい祭りに関わっている部署もある。

高知市役所...花火大会・よさこい全国大会

高知市商工観光部...高知城演舞場、花火大会、全国大会

高知市市民協働部地域コミュニティ推進課...市民憲章よさこい踊り子隊運営

高知市総務部...高知市役所チームの運営

(商店街) よさこい祭りの踊る場所として競演場・演舞場を運営商店街によっては、チームを出場させ運営しているところも見られる。

(警察) 交通規制、地方車の使用について許可など、安全管理に業務を行う。当日は、規制実施のため警察官の派遣。(地方車の規制・道路使用許可など)

(マスコミ) よさこい祭りの番組制作(中継・録画)、祭りのPRなどを行うが、祭りの運営に積極的に係わることはない。

(観光関連事業所) 特によさこい祭振興会と連携してよさこい祭りをを行うことはないが、あったか高知踊り子隊(自由参加型)を高知市旅館ホテル協同組合が運営している。

(青年部) 高知駅前演舞場の運営。他に追手筋本部競演場にボランティアとして参加。

【公社 高知市観光協会】(高知市の外郭団体) 追手筋競演場 機軸運営、花火大会、全国大会の開催、高知城演舞場の運営。

【よさこい祭り競演場連合会】(商店街振興組合・町内会の組織) 10・11日の各競演場・演舞場の運営

### 【3】よさこい祭りによる高知の経済効果について

2004年 70億7200万円

2006年 78億9100万円

2008年 66億7600万円(新しい統計指標に変更)

2012年 85億4600万円

2013年 85億9100万円

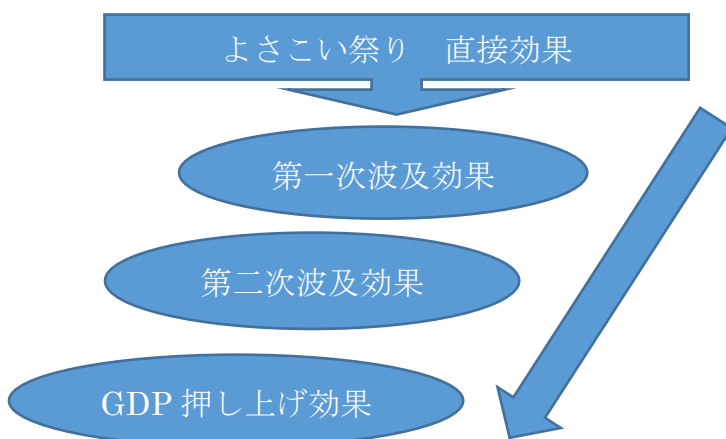


図4 よさこい祭りにおける経済効果の流れ

(よさこい祭りの経済波及効果調査報告書)より引用  
このように、よさこい祭りは直接効果だけでなく第一次、第二次波及により莫大な金額の経済効果がみられる。中でも、対個人サービスの経済効果は毎年高く、理由として踊り子の

ヘアメイクなどの美容関係が含まれているからと考えられる。

### 【4】現在のよさこい祭りの問題点と改善策

#### (1) 競演場・演舞場について

市内競演場、演舞場を支えているのは、地元の商店街であるが、商店街自体の衰退により経費負担が非常に厳しくなっているとともに、祭りが大きくなったことにより、競演場・演舞場も努力をしているものの会場数が固定化されている現状ではチーム数の増加に対しては限界に近づいている。会場数の増減はそのまま観客数の増減となるので、祭りのにぎわいにも影響してくると考えられる。

また、高齢化と後継者難から会場を運営する担い手が不足しており、ボランティア確保などの組織強化について検討していくことが必要となってくる。

#### (2) 祭りの運営組織について

よさこい祭り本祭のほか、よさこい祭り全国大会、まちなかよさこいなど、よさこい鳴子踊りを高知市内中心部で開催しているが、周年行事、地域行事として一元的管理と運営をすることで、観光商品化を目指すことも必要で、全体を総括する組織強化について検討しなければならない。

### 5-4 よさこい祭りの特徴

以上のことから、よさこい祭りの特徴として以下の3点があげられる。

#### 1、チーム数が年々増加している

初年度の参加チームは21チームだったのに対し、昨年の第61回では201チームと約10倍にまで増加している。また、チーム別に見ても、以前は商店街や企業などのチームの参加が多く見られたが、現在では個人のチームの参加が増加してきている。

#### 2、日本各地、様々な場所に伝播している

1992年に長谷川岳氏により北海道に伝播しとことで各地に広まり、現在、よさこい祭りに関連する祭りは1年を通して200種類もの祭りが存在する。

#### 3、組織自体の大きな変化はない

鳴子を持って踊ることや、よさこい鳴子踊りのメロディーを入れることなどのよさこい祭りの基本的なルールは初期の頃から変化していない。

### 5-5 20代を対象によさこい祭りに対する意識調査

よさこい祭りに対するイメージや魅力について、若年層の意識の流れを調査するために、ヒアリング調査を行った。ヒ

アリング対象は 20 代の男 1 名、女 6 名の計 7 名で、対面方式で行った。

〈質問項目〉

1. ヒアリング対象の生活習慣
2. よさこい祭りのイメージ
3. どのようによさこい祭りを知ったか（県外出身者対象）
4. 初めてよさこい祭りを見たときの感想
5. なぜよさこい祭りに参加したいと思ったか
6. 参加チームを選ぶときの基準は何か
7. 練習の時に思ったこと
8. 参加してみたの感想
9. よさこい祭りの魅力は何か

### 【1】 ヒアリング結果

よさこい祭りのイメージは楽しそう、高知＝よさこい、高知県の活性化、熱いなどの単語が多くみられた。また、よさこい祭りの魅力は、一体感を感じられる、達成感が味わえる、自己成長につながる、観る側も踊る側も双方が楽しめるといった意見が多く見受けられた。実際に参加してみたの感想は、評価されて嬉しい、友人の場が広まった、また踊りたいなどの感想があった。ヒアリングを通して、全体的にネガティブな意見はあまり見られず、若年層はよさこい祭りに対してポジティブなイメージを持っていることが明らかになった。

### 【2】 よさこい祭りを舞う気持ちの流れ

内向的な参加者がよさこいまつりを舞うに至った理由とその後の気持ちの変化の流れを図 5 に示す。

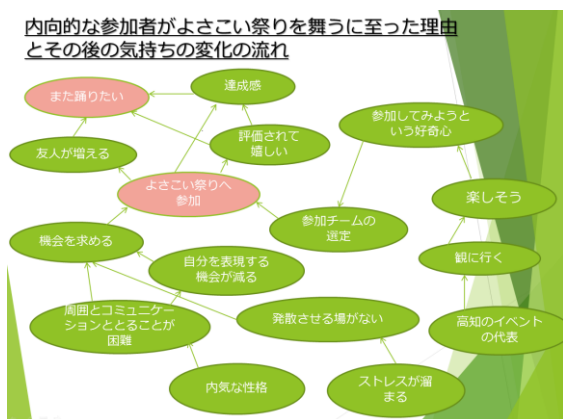


図 5 参加者がよさこい祭りを舞うに至った理由

気持ちの変化の一例を見てみると、本人が内向的である場合、日常生活で周囲とコミュニケーションをとることが困難なため、特別な機会を求める。その場としてよさこい祭りを利用し、実際に参加したことで友人が増えることや達成感が

味わえることからまたよさこい祭りに参加したいという流れになっている。

### 【3】 若年層がよさこい祭りに参加する理由

ヒアリング調査の結果からよさこい祭りに参加する理由として、以下の 4 点が考えられる。

- ・現代の若者は日常生活で一体感を感じることが少なく、よさこい祭りに参加しチームに所属することで一体感を感じる場を形成している。
- ・自己表現をしたいという気持ちはあるが、自分一人では何かしようという行動力が欠如しているため、チームに所属しその中で自己表現をするため。
- ・近年核家族化や若者の消極性の傾向がみられ、日常生活において希薄化しているコミュニケーションの場として参加し、そこから友人の輪を広めるため。
- ・一度参加してみて達成感や自己主張などの生きがいを見出し、また参加したいと思う人が多いため。

### 6. まとめ

高知県のよさこい祭りが存続、発展していく理由として、以下の 2 点が要因と考えられる。

#### 1、よさこい祭りの伝播

よさこい祭り自体のルールが少なく、比較的自由なため各地の特色を盛り込むことができ、受け入れやすくなっており、高知県外からの参加者、参加チームも増加している。

#### 2、若者に受け入れられている

参加者の枠組みが「高知市」から「全国」に変わったことで、参加者が気軽に集まりやすくなり個人チームの参加が増加したことや、時代の流れとともに、音楽や衣装など親しみやすいものを生み出している。

### 7. 今後の課題

引き続き若年層のよさこい祭りに対するイメージについてのヒアリングを行い、問題提起に対する分析の精度を高めるとともに結論の導きを明確化し、都市部の伝統芸能の衰退理由についてよさこい祭りと比較しながら、検討していきたい。

### 8. 参考文献・協力者

- [1]平田利矢子(2010)：YOSAKOI ソーラン祭りの研究－1999 年・2009 年の上位入賞チームにみる演舞構成－
- [2]松木祥平(2004)：全国に広がる「よさこい」の研究
- [3]岩井正浩(2009)：よさこい鳴子踊りの進化論(7)：町内会・商店街チームの展開
- [4]高知商工会議所 地域振興課 武石様
- [5]高知工科大学 学生